

令和3年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	児童生徒指導 部 会		
2 研究員	小学校 2名	中学校 3名	事務所員 2名



3 研究テーマ

不登校の事例の分析

4 研究の取組

(1) 研究内容

今まで取り上げてきた不登校の事例を分析し、不登校事例を経験したことが無い先生や、初めて出くわしたケースに参考にしてもらいやすい資料を提示する。

- ①不登校の改善に向けて行われている効果的な対策をまとめる。
- ②担任以外の教職員の効果的な関わり方をまとめる。
- ③特別教室(保健室など)の効果的な活用の仕方をまとめる。
- ④SC、SSW、適応指導教室などの効果的な活用をまとめる。

(2) 研究のあゆみ

月 日	実践内容	月 日	実践内容
5月10日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	10月1日	事例の分析とまとめ
6月21日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月22日	事例の分析とまとめ
		2月10日	3年次報告提出

5 研究の成果と課題

【成果】

- ・各学校の事例の見直しや振り返りを通して、新たな視点に気が付いたり、不登校事例に対する理解が深まったりした。
- ・共通点を明文化し、指導に大切な点をまとめたことで、不登校指導への方針を決める際の手立てとし、安心感を得ることができた。
- ・適応指導教室の見学では、現場で指導に当たる先生の意見や指導の手立てを知ることができた。

【課題】

- ・部員だけでは、所属する学校の限られた情報になってしまい、指導法が狭まってしまう可能性がある。
- ・実際には様々な不安さを抱えている可能性があるものの、心配事を表出しづらい児童生徒や保護者へのアプローチに難しさを感じた。

6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

- ・校内適応指導教室の在り方
- ・児童生徒指導＝不登校児童生徒というイメージになっているが、それ以外の部分をもっと研究したい。
- ・部員だけの情報で足りない場合は、リモートで他の学校の先生からの情報も聞きたい。
- ・栃木市の生徒指導主事研修会の内容を受けて、研究することを決めてもよいのではないか。
- ・学び方の多様性が浸透しつつあり、学校へ行くことの価値を全く見いだせないご家庭にはどう対処するべきか。